

農村ワーキングホリデーLIP

参加学生：21名（4年3名、3年8名、2年8名、1年2名）
指導教員：藤田武弘 学生事務局：家口直己、藤井優希

農村ワーキングホリデーとは？

- 都市農村交流の形態のひとつ
- 農業や農村に関心のある都市住民が受入農家のもとで農作業に従事し、その対価として寝食の提供を受ける
- 参加者と受入農家の交流が生まれる
↓
都市住民の農業への理解促進
農業の労働力不足の解消

活動目的

- 農村再生手法としての農村WHの可能性について検証する
- 都市農村交流を通じた「関係人口」づくりの効果について考える
- 農業・農村の実情に触れることで当事者意識を持つ

例年の主な活動

- 和歌山県かつらぎ町（6・8月 各2泊3日）
 - ・ぶどう栽培、収穫
 - ・観光農園での接客・販売など
- 岩手県胆江地方（9月 3泊4日 or 4泊5日）
 - ・稲刈り
 - ・野菜の収穫
 - ・畜産など

コロナの影響

今年度の活動

- 和歌山県田辺市（12月 2泊3日）
 - ・オンライン事前講義
 - ・みかんなどの柑橘、柿の収穫
 - ・収穫した果実の選果
 - ・箱詰め、出荷作業など

参加学生の学び

- 農作業体験や受入農家との交流を通じて農業のやりがいや苦労を学んだ
- 担い手の高齢化や後継者不足などの農業・農村の課題を実感した



今後の取り組み

- 受入農家や地域との関係を大切に、今後も積極的に農村に赴いて農作業支援を行う
- 都市農村交流の活性化に向けて農村WHの取り組みを広める
- 他の地域の農村WHにも参加する
- 活動を通じて得た経験や学びを大学生生活の諸活動にも活かす

